

# 日本音響学会講演論文集 Microsoft Word 2007以降版テンプレートの使い方\*

○原宿太郎，新宿花子（西工大）

## 1 はじめに

本ファイルは日本音響学会講演論文集（以下、音講論）の Microsoft Word 2007 以降版標準テンプレートである。なるべくこのテンプレートに沿って原稿を作成することが望まれる。

以下、本ファイルに関する説明を本文中に記載した。事前に本ファイルの中身を一読した上で使用することをお勧めする。

## 2 テンプレートの説明

### 2.1 原稿のスタイルについて

このテンプレートを用いて作成される原稿のスタイルは、演題登録後に日本音響学会から送付される「講演原稿の書き方」に基本的に沿ったものとなる。タイトル、著者を1段組とし、本文は20文字×47行の2段組として作成している。

タイトルの下に全著者名と各著者の所属を記載する。ここで、著者名の前に著者区分を示すために以下のマークをつける。

- ・ 講演者には○を付す。
- ・ 講演者が栗屋潔学術奨励賞対象者の場合には◎を付す。
- ・ 講演者が学生優秀発表賞対象者の場合には☆を付す。
- ・ 連名の非会員には△を付す。

また、著者の所属については、可能であれば略称で記載することが望ましい。著者、所属記載後は、2段組で本文の記載を始める。なお、1ページ目の一番下には脚注の欄として、タイトル、著者、所属の英語訳を記載する。このタイプの脚注を Word 2007 以降で実現しようとする、全体の書式が崩れる場合があるため、テキストボックスオブジェクトとして実現している。

Table 1 Size of fonts used in this manuscript

文章の種類	フォントサイズ
タイトル	14 pt
著者	12 pt
英文タイトル（脚注）	11 pt
セクション（見出し1）	12 pt
サブセクション（見出し2） ※謝辞，参考文献も同様	11 pt
本文	11 pt
図表のタイトル	11 pt
謝辞本文	11 pt
参考文献本文	11 pt

Table 2 Name of fonts used in this manuscript

	日本語	英数字
タイトル	MS 明朝	Times New Roman
セクション（見出し1）	MS ゴシック	Arial
サブセクション（見出し2） ※謝辞，参考文献も同様		
それ以外	MS 明朝	Times New Roman

### 2.2 使用フォントについて

文章中の各部のフォントサイズを Table 1 に示す。また、使用フォントの一覧を Table 2 に示す。なお、英数字は全て半角とする。

本ファイルを作成する際には、「標準」、「見出し1」、「見出し2」等の中でフォントを設定し、該当箇所にこれらを反映させている。

### 2.3 図表について

図表のタイトルは「図表番号」として挿入する。タイトルのフォントサイズは Table 1 にあるように 11 pt である。挿入位置は、図は下、表は上である。表内の文字のフォントサイズは 11 pt とする。

\* How to use “onkoron\_template (2007).docx” to prepare a good-looking manuscript for ASJ biannual meetings, by HARAZYUKU, Tarô and SHINJUKU, Hanako (Saikyo Institute of Technology).

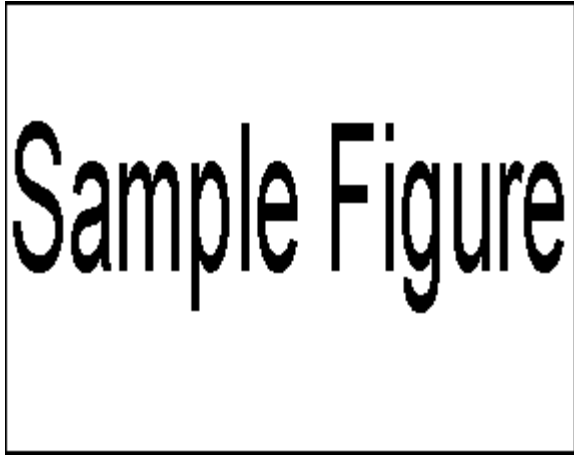


Fig. 1 Sample Figure

Fig. 1, Table 1, Table 2 の例にならい挿入する。クロスリファレンスを用いて本文で引用するとよい。

なお、図表は、天地にまとめる、あるいは、その図表が参照されるサブセクションの最後に挿入するなど、見やすく配置することを心がける。また、大きい図表については、その部分のみ 1 段組として挿入する。

## 2.4 本文について

本文の表記については、日本音響学会誌の投稿規定に準拠して記載する。本文中で参考文献を引用する際は、引用箇所に番号を記載する。その際には、<sup>[1]</sup>というように番号を括弧で囲んで上付で挿入するか、文献[1]のように表記する。同一箇所に複数の参考文献を引用する際は、<sup>[1,5]</sup>, <sup>[1-3]</sup>のように、まとめて記載する。さらに、同一番号で参考文献欄に書誌情報を記載する。

そのほか、一般的な書き表し方については、標準的な方法に習って書き表す<sup>[5]</sup>。

## 2.5 謝辞について

必要に応じて、本文の最後、参考文献の前に謝辞を挿入する。フォントサイズ等は「謝辞」欄に記載してあるので、そちらを参照して記載する。

## 2.6 参考文献について

参考文献のタイトルの作成方法は謝辞と同じである。参考文献自体のフォントサイズは本文と同様に 11 pt である。少なくとも、正しく引用するのに必要な情報は記載する。著者が 3 名以上いる場合は、第一著者のみ記載し、

「他」, 「*et al.*」を入れる。書誌情報のフォーマットの例は、このテンプレートの最後の「参考文献」欄に記載してあるので、参照されたい。

## 3 その他の TIPS

以下に、Microsoft Word を使って見やすい原稿を作成するための、TIPS を参考までに示す。

- ・本文中に周波数 1000 Hz, 音圧レベル 40 dB といった値を記載する際は、数値と単位の間に関数スペースを入れる。

## 4 おわりに

以上が分かりやすい原稿づくりの参考になれば、幸いである。

## 謝辞

謝辞のタイトルは、見出し 2 (サブセクション) の追加を行い、箇条書きと段落番号をなしとして設定する。本文と同様にフォントサイズを 11 pt として書く。

## 参考文献

- [1] 著者名, 雑誌名, 巻 (号), ページ, 年.
- [2] 著者名, 文献名, 出版社名, 年.
- [3] 高橋, 鈴木, 音講論 (春), 123-124, 2005.
- [4] Sato *et al.*, Acoust. Sci. Tech., 1 (2), 34-45, 2005.
- [5] 三省堂編修所編, 新しい国語表記ハンドブック, 三省堂, 1991.